

**第6次荒尾市総合計画  
重点戦略「あらお未来プロジェクト」**

**令和2年8月28日  
荒尾市総合計画審議会**

# 目次

1. 第6次荒尾市総合計画の体系図 … 1
2. 重点戦略「あらお未来プロジェクト」… 2
  - ①切れ目のない充実した子育て環境をつくる… 2
  - ②誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる… 4
  - ③雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる… 6
  - ④あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる… 8
  - ⑤先進的で持続可能なまちをつくる… 10
    - 施策の体系
    - 現状・課題・基本的方向と数値目標
3. 荒尾市におけるSDGsの取り組み… 12
4. 第6次荒尾市総合計画とSDGsの対応表… 13

計画期間：令和2年度～令和7年度

## 将来像：人がつながり幸せをつくる 快適未来都市

- 先端技術や情報通信技術であらゆるモノや情報が「つながり」、新たな価値を生み出す、暮らしの利便性が高いまち
- 人やコミュニティなどの「つながり」が充実した、暮らしの安心感が高いまち

### 推進指針

- ① 「まち」の創生 先端技術の積極的な活用により暮らしの利便性や満足度を高める一方で、地域コミュニティの充実を併せて推進することで暮らしの安心感を創出し、まちの魅力を高める
- ② 「ひと」の創生 妊娠から出産、幼児教育・義務教育・高等教育までの一貫したサポートで、子どもを産み育てやすい環境をつくとともに、子どもから高齢者まであらゆる市民が健康で生きがいをもって生活できるようにする
- ③ 「しごと」の創生 経済の活性化により安定した暮らしを守るとともに、起業など夢の実現を応援する

### 重点戦略「あらお未来プロジェクト」

1. 切れ目のない充実した子育て環境をつくる
2. 誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる
3. 雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる
4. あらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる
5. 先進的で持続可能なまちをつくる

### 施策の体系

【基本目標】

【基本施策】

【具体的な施策】

切れ目のない充実した子育て環境をつくる

#### 1 若い世代の結婚希望の実現

結婚を希望しているにも関わらず、出会いの機会の不足や経済的な不安などにより実現できない人に対し、関係機関と連携したサポートを行い、希望の実現を図る。

(ア) 広域連携による結婚希望者等への支援

#### 2 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

希望する子ども数の実現に向け、妊娠、出産に関する支援を行うとともに、出産後も安心して子育てをすることができるよう、ニーズに合わせた切れ目のない支援を行う。

(ア) 母子保健事業の充実

(イ) 援助を必要とする子どもや子育て家庭への支援

#### 3 子育てしやすい環境づくり

子育て世帯の経済的負担を軽減するとともに、仕事と家庭を両立しやすい環境を整備することで、経済的・時間的にゆとりをもって子育てができるようにする。

(ア) 子育て世帯の経済的負担の軽減

(イ) ニーズに合わせた保育環境の整備

#### 4 魅力ある教育環境の実現

子育てをする上で教育は重要な要素となっていることから、幼児教育から義務教育、高等教育まで、一貫して、ニーズに合わせた独自性の高い教育が提供できるよう、内容の充実と魅力の向上を図る。

(ア) 確かな学力の育成

(イ) 豊かな心の育成

(ウ) 教育環境の整備・充実

### 現状・課題・基本的方向

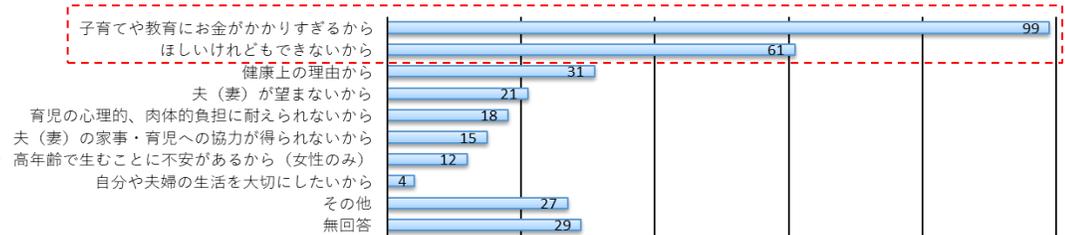
#### ■ 子育て世帯の経済的負担の軽減

希望する子どもの数より実際の子どもの数の方が少ない理由として「経済的な理由」が最も多くなっているため、「荒尾子ども未来基金」も活用しながら、子どもの成長段階に合わせた経済的支援を行い、希望する子ども数に近づけることを目指す。

#### ■ 安心して妊娠・出産・子育てができる環境の整備

希望する子どもの数より実際の子どもの数の方が少ない理由として「ほしいけれどもできない」という理由も上位に挙がっているため、妊娠、出産に関する支援を行うとともに、出産後も切れ目のない支援を行うことで、保護者の不安を解消し、安心して子育てできる環境を整備する。

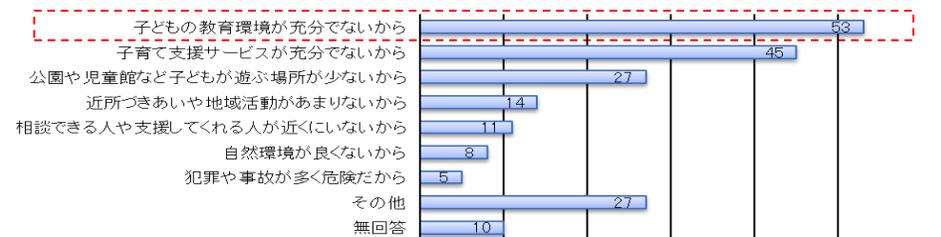
希望する子どもの数より実際の子どもの数の方が少ない理由 (H30まちづくりアンケート)



#### ■ 幼児教育や義務教育、高等教育までの一貫したサポート

本市での子育て意向が低い理由として「子どもの教育環境が充分でない」というものが最も多く、さらに、市内中学校の卒業生の市内進学率は3割程度であるという状況もあるため、幼児教育や義務教育における教育の質の向上をはじめ、市内高等学校の魅力向上も含め、ニーズに合わせた教育環境の整備を行うとともに、幼・保・小・中・高の一貫した人材育成を行うことで、子育て環境としての本市の魅力向上を目指す。

荒尾市で子育てをしたいと思わない理由 (H30まちづくりアンケート)



### 数値目標(設定理由)

合計特殊出生率	現状値(H29)	→	目標値(R5)	人口ビジョンにおける将来展望人口の実現に向け、自然動態の状況を測る指標として設定。算出に当たっての条件と整合するよう、目標値設定。
	1.95		2.0	
荒尾市で子育てをしたいと思う市民の割合 (%)	現状値(R1)	→	目標値(R7)	子育て環境としての総合的な評価を測る指標として設定。アンケート結果を分析することで教育環境の満足度についても把握する。
	65.3		70	

### 施策の体系

#### 【基本目標】

誰もが  
つながりを持ち、  
健康で  
いきいきとした  
暮らしをつくる

#### 【基本施策】

### 1 健康長寿社会の実現

全ての世代において、疾病の予防対策や早期発見・早期治療により、健康長寿社会の実現を図るとともに、病気になっても安心して治療が受けられるよう、地域医療の充実を図る。

(ア) ライフステージに応じた疾病予防

(イ) 食生活や運動習慣を基盤とした健康づくりの推進

(ウ) 地域医療の充実

### 2 地域共生社会の実現

高齢者や障がい者をはじめ、年齢や性別、家庭環境や国籍などに関わらず、誰もが地域の中で居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合うことができる社会の実現を目指す。

(ア) 地域包括ケアシステムの推進

(イ) 障がい者の社会参画の促進

(ウ) 社会的孤立の防止

(エ) 多様性を尊重し支え合う地域づくり

### 3 生涯学習の推進

自己の教養の向上やその知識を活かした社会活動への参加、コミュニティにおける交流など生きがいを持って生活することでいきいきと充実した暮らしを送ることができるよう、生涯学習の環境整備や機会の充実を図る。

(ア) 多様な学習機会の提供

(イ) スポーツ活動の推進

(ウ) 子どもたちとの交流を通じた学びの充実

## 現状・課題・基本的方向

### ■居場所と役割のあるコミュニティづくり

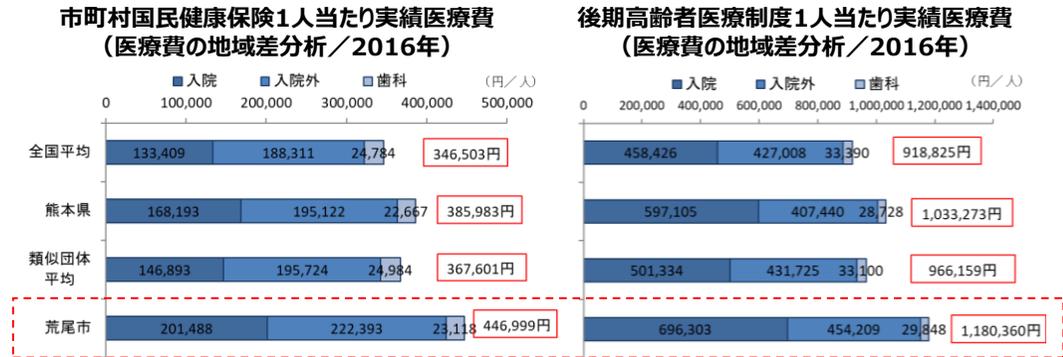
人口減少や少子高齢化が進行する一方、外国人人口が増加する中、安心して暮らすことができる環境をつくるためには、高齢者や障がい者をはじめ、年齢や性別、家庭環境や国籍などに関わらず、誰もが地域の中で居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合えることができるコミュニティをつくるのが重要であるため、多様性を尊重した地域共生社会の実現を目指す。

### ■健康でいきいきとした暮らしの実現

コミュニティの中でのつながりを通じた暮らしの安心感とともに、暮らしの充実感の向上を図るため、生きる上での基本となる健康づくりの取組みを推進するとともに、誰もが生きがいを持って生活することができるよう、生涯学習の推進に取り組む。

### ■医療費の高騰への対応

本市の国民健康保険の医療費と後期高齢者医療制度の医療費は、ともに、全国平均、熊本県、類似団体平均よりも大きく上回っているため、医療費の適正化や生活習慣病の改善、症状が悪化する前の受診促進などを行う必要がある。住民の健康意識の向上に向けた取組みを推進するとともに、先端技術も活用しながら、効率的に健康管理ができるような方法を検討する。



## 数値目標(設定理由)

何らかの地域活動に参加している市民の割合 (%)	現状値(R1)	→	目標値(R7)	コミュニティにおけるつながりを測る指標として設定。荒尾市地域福祉計画における目標と整合するよう、目標値設定。
	42.1		75	
平均自立期間(日常生活動作が自立している期間の平均) (年)	現状値(R1)	→	目標値(R7)	健康でいきいきとした暮らしができていないかを測る指標として設定。国の健康寿命に関する目標(2040年までに3歳以上延伸)を参考に、目標値設定。
	男 78.9 女 83.8		男 79.5 女 84.4	

## 施策の体系

## 【基本目標】

## 【基本施策】

## 【具体的な施策】

雇用の確保と所得の向上で  
安定した暮らしをつくる

## 1 安定した雇用の創出と就職支援

広域的な通勤アクセスの利便性が高いという特性があるものの、居住地としての魅力をさらに高め、市外への転出超過を解消するため、市内に安定した雇用の場を確保するとともに、若い世代や高齢者、女性や障がい者など、あらゆる方が就職しやすい環境をつくる。

(ア) 企業立地の推進

(イ) 創業及び事業承継支援

(ウ) 地元(市内)就職の促進

(エ) ニーズに合わせた就業支援

## 2 生産性向上や地域経済循環による所得の向上

人口減少が継続し人手不足が深刻化する中であっても、市内の総生産額を高め、所得の向上を図るため、地域産業の生産性向上や高付加価値化などに取り組むとともに、地域経済の域内循環を高めることで、地域経済の活性化を図る。

(ア) 地域産業の生産性向上

(イ) 農水産業の成長産業化

(ウ) 地域経済循環の促進

## 現状・課題・基本的方向

### ■ 安定した雇用の創出と就職支援

近年の人手不足を背景に、玉名公共職業安定所管内の有効求人倍率は高い水準で推移しており、市内各高等学校への求人数も同様の状況であるが、一方で、本市に居住する就業者の約半数は市外に通勤しているなど、ミスマッチが生じている可能性がある。就業ニーズを踏まえた企業誘致や創業支援などにより安定した雇道を創出するとともに、地元企業を知ってもらう取組みや事業承継に向けた取組みを推進することで、地元就職の促進を目指す。

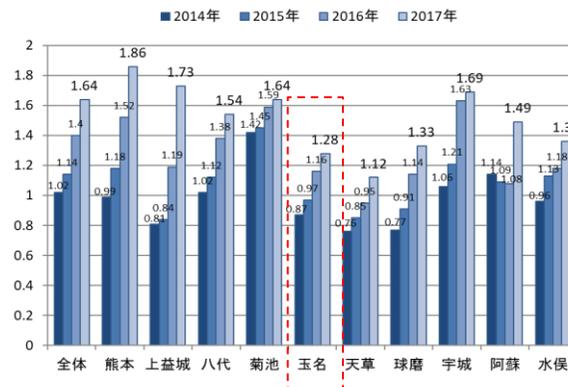
### ■ 生産性向上や販路拡大による所得の向上

人口減少により人手不足が深刻化する中でも、市内の総生産額を高め、所得の向上を図るためには、それぞれの産業分野において生産性を高めていく必要がある。サービス産業におけるキャッシュレス化はもとより、特に高齢化が著しい農漁業分野においては、農業経営の集約化と併せ、先端技術による作業の自動化や熟練農家の技術継承、センシングデータの活用・解析などの「スマート農業」を推進するとともに、高付加価値化や、海外を含めた販路拡大を図ることで、生産性向上と競争力強化による所得の向上を目指す。

### ■ 地域経済循環の促進による地域経済の活性化

市民所得の向上に向けては、市内における生産活動で創出された付加価値が市内に分配されることが重要であるため、エネルギーの地産地消をはじめ、新たに整備する道の駅において、地場製品の販売を行うことによる地産地消（地産外消）を推進することで、地域経済の活性化を目指す。

有効求人倍率の推移（職業安定業務年報）



市内各高等学校への求人数・就職者数の推移（各高校提供データ）



## 数値目標(設定理由)

市内の従業者数 (人)	現状値(H28)	→	目標値(R6)	市内における雇用の場を測る指標として設定。人口の減少率に鑑み、人口が減少する中でも現状程度を維持することで実質的に雇用の場を拡大できるよう、目標値設定。
	15,011		15,000	
一人当たりの市町村民所得 (千円)	現状値(H29)	→	目標値(R5)	雇用者や企業などの所得の状況を測る指標として設定。現状値時点での県内全市町村の平均値を目標値に設定。
	2,188		2,257	

## 施策の体系

## 【基本目標】

あらおファンを増やすとともに、  
移住しやすい環境をつくる

## 【基本施策】

## 1 「あらおファン」の拡大

本市の強みである観光資源を活用し、交流人口の増加を図ることで本市の知名度や本市に関心を持つ人を増やすとともに、本市と継続的に多様な形での関わりを持つ「あらおファン」を増やすことで、本市への移住を検討する契機とする。

(ア)本市への関心と好感度の向上

(イ)観光地域づくりの推進

(ウ)インバウンド観光の推進

(エ)都市農村交流

## 2 本市への移住の推進

福岡都市圏や熊本都市圏の中間にある地理的優位性や、充実した公共交通や道路ネットワークによる通勤・通学のしやすさ、災害の少なさなど、本市の「暮らしやすさ」を最大限に活かしながら、移住しやすい環境を整備することで、本市への転入者の増加を図る。

(ア)二地域居住や住み替えの支援

(イ)移住促進に向けた関係深化

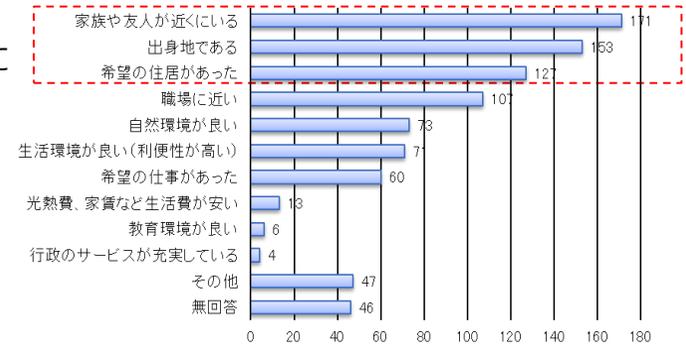
## 【具体的な施策】

## 現状・課題・基本的方向

### ■ 転入の促進に向けた「あらおファン」づくり

本市にUターンまたはIターンで転入した人の「転居先を荒尾市に決めた理由」は、「家族や友人が近くにいる」や「出身地であった」が多くなっており、本市と何らかの関わりがある人の転入が多くなっている。このような特徴も踏まえ、定住人口の増加に向けたプロセスとして、まずは本市と継続的に多様な形で関わる「あらおファン」を増やすこととし、それぞれの関わりを深めることで、本市への好感度を高め、最終的に移住につなげることを目指す。

「転居先を荒尾市に決めた理由」(H30まちづくりアンケート)



### ■ 観光資源を活かした「あらおファン」の拡大

移住先としての認知を得るためには、まずは本市の知名度を高めていく必要がある。本市には全国有数の観光資源が豊富にあり、毎年約200万人の観光客が訪れているので、これらの観光資源を活かして観光入込客数の拡大を図り、知名度の向上を目指すとともに、継続的に本市を訪れる「あらおファン」に対して、それぞれのライフステージに合わせた情報発信などを行うことで、本市への移住を検討する契機とすることを目指す。一方、観光入込客のうち宿泊客が少なく滞在時間が短いという課題もあるので、周遊性を高めることなどにより滞在時間の拡大を目指す。



### ■ 移住に向けた支援の強化

「希望の住居がある」ことも転居先の決定に大きく影響する傾向があるため、お試し暮らし体験住宅や空家バンクなどの住居面での支援を行うとともに、安心して移住後の生活を送ることができるよう、相談対応などの支援を行う。

## 数値目標(設定理由)

あらおファンの人数 (人) ふるさと会員数+ふるさと納税ピーター数+各種行事の市外ピーター数	現状値(R1)	→	目標値(R7)	継続的かつ多様な形で本市に関わる「あらおファン」が増えているかを測る指標として設定。これまでの推移も踏まえつつ、ふるさと会員については転出超過数に相当する200人程度の増加を目指すこととし、目標値設定。
	1,170		3,000	
本市への転入者数 (人)	現状値(R1)	→	目標値(R7)	各移住促進施策の直接的な成果を測る指標として設定。関連する具体的な施策のKPIや南新地地区のまちづくりの影響を考慮し、目標値設定。
	1,757		2,000	

## 施策の体系

## 【基本目標】

## 【基本施策】

## 【具体的な施策】

## 先進的で持続可能なまちをつくる

## 1 暮らしやすいまちの基盤の構築

商業や医療、福祉などの生活に必要な機能を持続的に確保するとともに、市全体のネットワーク化や地域コミュニティの充実などにより、利便性の高い上質な暮らしができるよう、まちの基盤を構築する。

(ア)コンパクトシティの推進と道路ネットワークの形成

(イ)スマートシティの推進

(ウ)地域コミュニティの充実・活性化

(エ)持続可能な交通ネットワークの形成と公共交通の活性化

(オ)美しい街並みと住環境の形成

## 2 持続可能な循環型社会の形成

太陽光やバイオマスなどの再生可能エネルギーの利用促進などにより二酸化炭素の排出抑制を図るとともに、ごみの減少化や資源化の推進などにより、持続可能な循環型社会の形成を図る。

(ア)脱炭素社会の実現

(イ)循環型社会の形成

(ウ)荒尾干潟の保全

## 3 災害等に強いまちづくり

全国的に災害が多発する中でも、安心して生活できるようにするため、防犯や防災に関する取り組みやインフラ整備を通じたまちの強靭化を図る。

(ア)防犯防災対策

(イ)インフラ整備などによるまちの強靭化

### 現状・課題・基本的方向

#### ■ 持続可能な地域社会の実現

人口減少が避けられない見通しである中であっても、都市のコンパクト化や先端技術の活用などにより日常生活の利便性が確保される一方、地域コミュニティによる特色ある地域づくりが展開されるなど、あらゆる地域で暮らしの質を落とすことなく、美しい住環境の中で快適に安心して暮らすことができる社会の実現を目指すとともに、それが持続可能な仕組みとして永続的に循環するような地域社会の構築を目指す。

#### ■ 利便性の高い公共交通体系の構築

高齢化に伴い自動車運転免許の自主返納や返納後の移動手段について関心が高まる中、路線バスや乗合タクシーの利用促進はもとより、新たなモビリティサービスの導入も含め、ニーズを踏まえた持続可能で利便性の高い公共交通体系の構築を目指す。

#### ■ 美しい街並みづくりと住環境の形成

空家・空地の増加が課題となる中、空家・空地の適正管理を推進することともに、花の植栽などをはじめとした美しい街並みづくりを推進することで、住環境の向上を目指す。

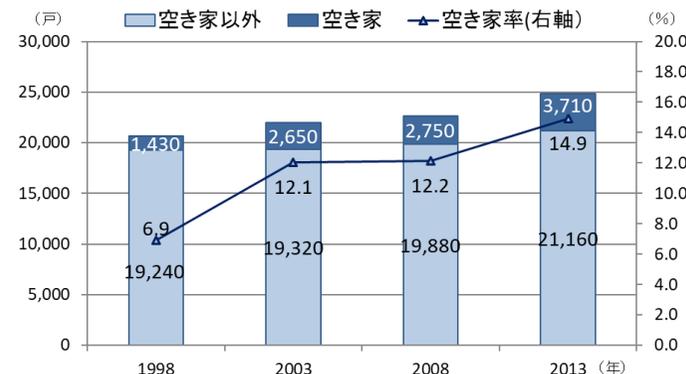
#### ■ 環境に配慮した取組みの推進

再生可能エネルギーの活用による二酸化炭素の排出抑制やごみの減量化・資源化など、環境への負荷を軽減する取組みを推進することで、地球温暖化などを防止し、持続可能な社会を構築することを目指す。

#### ■ 災害等に強いまちづくり

本市は大きな災害が少ない地域であるが、防犯体制や地域防災力の強化、インフラ整備などにより、さらに安心して生活できるまちづくりを推進する。

住宅ストックの推移（住宅土地・統計調査）



### 数値目標(設定理由)

荒尾市が暮らしやすいと感じている市民の割合 (%)	現状値(R1)	→	目標値(R7)	コンパクトシティの推進により、人口が減少する中でも暮らしやすさを高めることを目指し、指標として設定。これまでの推移を踏まえ、目標値設定。
	71.8		80	
居住誘導区域内の人口密度	現状値(R1)	→	目標値(R7)	人口が減少する中でも生活に必要な機能が維持できるよう、人口の集積を測る指標として設定。荒尾市立地適正化計画の目標値と整合。
	43.1人/ha		42.3人/ha	

- SDGs（持続可能な開発目標）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2016年から2030年までの国際目標である。
- 持続可能な世界を実現するための17のゴールから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。SDGsは、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、現在、国においても積極的な取り組みが進められている。
- SDGsについては、本市としても重要な取り組みであると認識しており、第6次荒尾市総合計画の目指すべき方向性とも基本的に合致してくることから、このSDGsの考え方と、総合計画の各施策の取り組みについて、13ページの表のとおり整理する。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



重点戦略	基本施策	SDGsの17の持続可能な開発目標との関連																
		1 貧困をなくそう	2 質の高い雇用を創出	3 健康と長寿を促進	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等をすすめる	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 豊かさをみんなに実感	9 産業と雇用を創出	10 人や国を超えて公正で包摂的な成長を促す	11 住み続けられるまちづくりを	12 つぶやみ持続可能な消費と生産	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすすめる	17 パートナーシップで目標を達成しよう
1. 切れ目のない支援で充実した子育て環境をつくる	(1)若い世代の結婚希望の実現	●																
	(2)妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援			●						●								
	(3)子育てしやすい環境づくり	●	●															
	(4)魅力ある教育環境の実現				●	●			●									●
2. 誰もがつながりを持ち、健康でいきいきとした暮らしをつくる	(1)健康長寿社会の実現			●														
	(2)地域共生社会の実現	●																●
	(3)生涯学習の推進				●	●												
3. 雇用の確保と所得の向上で安定した暮らしをつくる	(1)安定した雇用の創出と就職支援					●			●									
	(2)生産性向上や地域経済循環による所得の向上		●							●			●					
4. さらおファンを増やすとともに、移住しやすい環境をつくる	(1)「さらおファン」の拡大											●						
	(2)本市への移住の推進											●						
5. 先進的で持続可能なまちをつくる	(1)暮らしやすいまちの基盤の構築							●		●		●	●	●		●		
	(2)持続可能な循環型社会の形成							●	●		●		●	●	●	●	●	
	(3)災害等に強いまちづくり											●						